

視教だより

第 82 号

令和 2 年 3 月 1 日

下伊那視聴覚教育協会

まえがき

下伊那視聴覚教育協会 会長 川手浩司

昭和、平成、そして令和へと発行し続けてきた「視教だより」も、本年度で「第82号」の発行となりました。このように発行を続けてこられたことを、関係の全ての皆様に感謝申し上げます。

小学校では2020年度、中学校では2021年度の新学習指導要領全面実施に向けて取り組みが進められている中、本年度は11月22日(金)に、下伊那視聴覚・情報教育研究大会を松尾小学校・緑ヶ丘中学校のご協力をいただいて開催しました。

松尾小学校では、研究テーマを「学び合い、課題を追究できる児童の育成」と据え、電子黒板にプレゼンを映して英語で紹介する4年外国語活動『自分のお気に入りの和菓子をニコール先生に紹介しよう』の授業、電子黒板で児童の意見を共有して考えを深めていく6年生国語科『鳥獣戯画を読む』の授業、傘を並べて作った作品をデジタルカメラで撮影し、プロジェクターで投影して共有する6年図画工作科『ひらいてみると』の授業を提供していただきました。また、緑ヶ丘中学校では、研究テーマを「自ら学ぶ 共に学ぶ」と据え、タブレットのアプリ『月の満ち欠けAR』を用いた3年理科『月と惑星の見え方』の授業を提供していただきました。どの授業もICT機器を有効活用することで、児童・生徒たちが目を輝かせながら主体的に学ぶ授業となり、友との関わりを大切にしながら進める授業でした。

11月13日に安倍首相が経済財政諮問会議で「PCが1人1台となるのが当然だということを国家意思として示す」と発言した通り、下伊那視聴覚・情報教育研究大会が開催された11月22日には、「政府が経済対策で盛り込む学校の情報通信技術化で、全国の小学5年生から中学3年生がパソコンを1人1台使える環境を整備する案を検討している」とのニュースが流れました。更に、経済協力開発機構が行った学習到達度調査では、15年調査で紙に手書きで解答する方式からパソコンで入力する方式に変更した影響もあってか、「日本の15歳『読解力』15位に後退」という結果が出たというニュースも流れました。

情報機器を使うことが当たり前の社会となっており、学校教育でもICT機器を活用して必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成が求められています。そのためにも今まで以上に研究を重ね、質の高い授業となるよう実践を積み重ねていくことが私たちに課せられた使命だと思います。

下伊那視聴覚教育協会では、ICT機器の有効活用を中心とした基礎技術講習会を開催しております。また、各市町村からいただいている負担金をもとに、毎年DVD教材を購入・更新して下伊那教育会館別館にある視聴覚ライブラリーで貸出しをしています。下伊那教育会のホームページからこれらの教材を閲覧することができますし開館日時も確認できます。是非ご活用ください。

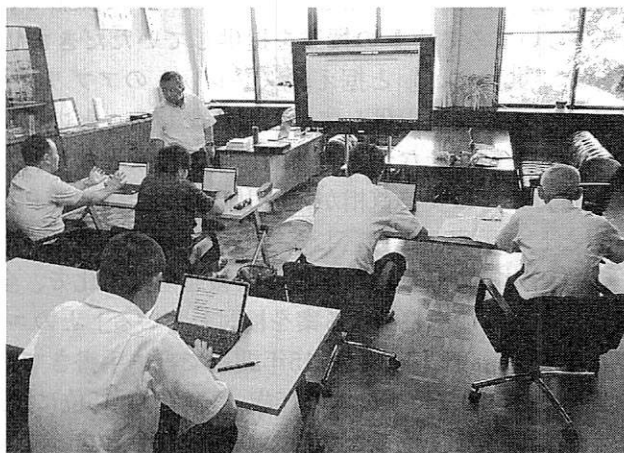
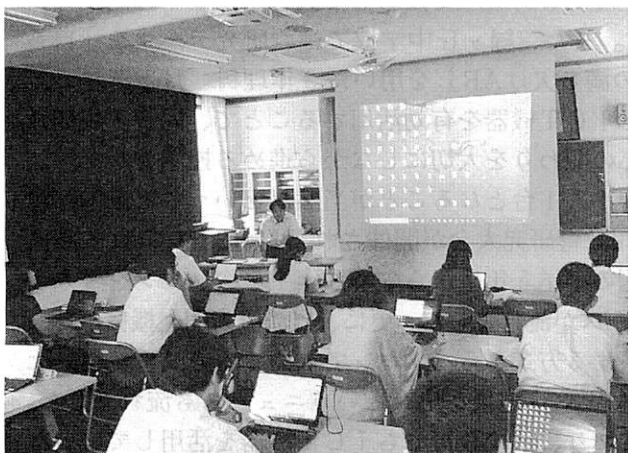
目 次

まえがき	1
第62回 下伊那視聴覚・情報教育研究大会	3
第51回 長野県視覚・放送・情報教育研究大会 松本大会	11
第30回 情報・視聴覚基礎実技講習会	12
ライブラリーの充実とホームページの利用	13
あとがき	14
令和元年度 下伊那視聴覚教育協会組織	15

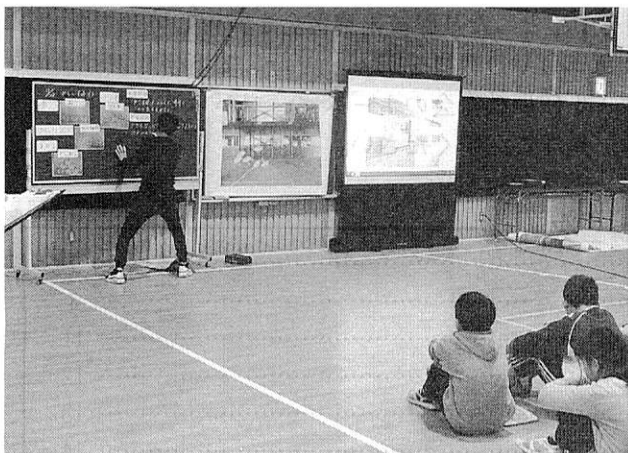
視聴覚教育協会の一コマ



定期総会の様子



基礎実技講習会



松尾小学校授業風景（図画工作）



緑ヶ丘中学校授業風景（理科）

一 第62回 下伊那視聴覚・情報教育研究大会

第62回下伊那視聴覚・情報教育研究大会が、令和元年11月22日(金)に、飯田市立松尾小学校、飯田市立緑ヶ丘中学校において開催されました。飯田下伊那地区の小中学校から、多くの方の参加があり、盛大に開催することができました。

大会主題

『広い視野をもち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成をめざして』
～教育メディアの効果的活用を通して～

松尾小学校 研究テーマ

『学び合い、課題を追究できる児童の育成』

(一) 公開授業

【外国語活動】 4年4組

授業者 曾根原 亮 教諭

【特別支援教育（図画工作科）】 6年3組

授業者 今牧 涉 教諭

【学力向上（国語科）】 6年2組

授業者 中野 梨奈 教諭

本年度、松尾小学校では3つの授業を公開した。各研究の骨子を下に紹介する。

A 外国語活動

外国語活動研究テーマ

主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

児童の実態

- ・英語でのゲームで意欲的に活動したり、学んだ定型文を伝えたりすることはできる。
- ・「何のために今このゲームをしているのか」という意識は薄く、ともすれば「楽しかった」という振り返りになってしまうこともあった。
- ・昨年度、3～4年が15時間、5～6年が50時間の外国語活動を行ってきたが、定型文にない語や表現を使っているコミュニケーション経験が少ない。
- ・相手の言ったことに反応しながら会話をふくらませることができない(あまりしたことがない)。



手だて

(1) 児童が主体的に取り組める Unit Goal の設定

4年生での例

- U2 Unit Goal: ニコール先生と何をして遊びたいかを提案しよう。
- U3 Unit Goal: 理想の献立を友達に紹介しよう。
- U4 Unit Goal: 理想の生活の時刻を友達に伝えよう。
- U5 Unit Goal: 自分のオリジナル筆箱を考え、友達に伝えよう。

(2) Unit Goal に向けて見通しをもって力をつけていけるような Unit 展開

Unit 展開の概要 () 内は視聴覚教材の活用

- ① Unit Goal を知り、Unit の計画を立て、学習の見通しをもつ。(視覚化・共有化)
 - ② Unit Goal に対応する発表内容や紹介する内容について自分の考えをもつ。
 - ③ Unit Goal に向けて必要な力をつける。(共有化・焦点化)
 - ④ Unit Goal に向けて、つけた力を使う。(視覚化・共有化)
 - ⑤ ついた力の自覚・次への展望・振り返り。
- ※ Small talk などの活動中に、随時、活動を止めて行う中間の振り返り・共有(困ったこと・新しい反応例など)。

(3) コミュニケーションの素地をつくる Reaction Point (RP) の設定・掲示

- ・ くり返す「Steak?」 ・ おどろき「Wow!」 ・ 同意する 「Nice. Good.」
- ・ 相づちを打つ ・ ジェスチャー ・ 既習事項を使う

(4) 友と学び合う必要感を生み出す場面設定

- ① 教師側から意図的に、「I get up at 10.」などと、定型文や Reaction Point の反応では対応できないような場面をつくってのやりとり。 → 「Too late.」「Why?」などといったコミュニケーションへの広がり。
- ② 友と英語でコミュニケーションする中で、工夫して伝え合う方法や新たな表現を学び合う。 → Reaction Point の幅を広げるジェスチャーや例示による表現、「Me too.」といった言いたい英語への広がり。



主体的にコミュニケーションを図ることができる

B 特別支援教育（図画工作科）

【研究テーマ】

特別支援学級から学ぶ、通常学級のユニバーサルデザイン化

支援を必要とする児童の実態

- ・ 図画工作においては、低学年の頃から経験は豊富。なので、新しい学習活動に取り組むことに対しての抵抗感はない。
- ・ 製作において、「何を」「どのように」「どうすれば」という見通しをもつことが難しい。
- ・ 造形遊びでは、対象のものを見て変化させたり、動きを付けたりするなど、自分なりの発想を生み出すことが難しい。
- ・ 自分から表現する力が弱いので、作品の良さを文字や言葉に表すことが難しい。

図画工作科としての学び合い

◇ 関心・意欲・態度（聞く 心動かす）

→ 新しく出会った題材に対して友達の話の聞いたり、自分の思いと友達の思いを比較したり、共感したり、修正したりするを通して、これから取り組んでいく学習内容に興味・感心をもつと同時に、自分で完成させたイメージを膨らませる。

◇ 発想や構想の能力（自分の意見や考えをもつ）

→ 自分なりの理由や根拠をもって作品を制作することができる。

- ・ 理由や根拠をもつために、既習事項を活用しながら、これまでの学習内容を関連させて、理由や根拠を考えることができる。

◇ 創造的な技能（表現する 伝える）

→ 作品に対する自分の理由や根拠を友達に伝えたり、友達の理由や根拠を聞いたりするを通して、これまでもっていなかった思いや願いの表現仕方や、作品に対する新しい様々な見方・考え方を獲得する。

◇ 鑑賞（深める）

→ 学習活動を通して新たに獲得した思いや願いの表現方法や、作品に対する新しい様々な見方・考え方を友達と交流させることにより、自分と友達の考えを比較したり、共感したりして、確かな納得を得るを通して、お互いの意見を練り上げていく。

特別支援教育を実現させるユニバーサルデザイン化

◇ 関心・意欲・態度（聞く 心動かす）

→ 題材との出会いにおいて、子どもたちが「やってみよう」「つくり上げよう」という思いをもつことができるようにするために、視聴覚機器を使い、子どもたちが制作開始から完成までの見通しとイメージをもつことができるようにする。

◇ 発想や構想の能力（自分の考えや意見をもつ）

→ 自分の理由や考えをもつために、意見や思いをカードに表して、自分の考えが一番近いものを選択する。

- ・ 自分が良いと思ったり、納得したりする内容について、印やマーカーなどで見てわかるようにする。

◇ 創造的な技能（表現する 伝える）

→ 言葉で表現することの苦手さを補助するために、「いいね！」カードを準備する。友達の意見や考えを聞いて賛成したり、納得したりしたときは、「いいね！」カードを提示して自分の思いを伝えることができるようにする。

◇ 鑑賞（深める）

→ 友達とお互いの意見を練り上げていくことができるようにするために、交わした言葉を図式化して、見てわかるようにする。

- ・ 本時の頑張りを認めて賞賛を贈り、本児の頑張りを全体に広げて、次時の意欲へとつなげるようにする。

通常学級におけるユニバーサルデザイン化を通して、支援を必要とする児童も見通しをもち、自分から学習活動に参加することができる。

C 学力向上（国語科）

研究テーマ 主体的に学び合う授業づくり～「読む力」を高めることをめざして～

「読むこと」についての児童の実態

- ・読み聞かせが好きな児童が多い反面、読書については好きと嫌いの二極化が見られる。
- ・漢字やひらがながの読み書きが定着していない児童や、語彙が少ない児童は、文章を読むことに抵抗があり、自信を持って学習に向かえない姿が見られる。
- ・物語文は場面を想像しながら読み進めることができるが、説明文などの長文読解には苦手意識を持っている児童が多く、文意を正しく読み取ることができない姿が見られる。
- ・他教科においても、問題文の意味を読み取れない姿が見られる。
- ・読んで考えたことを発表し合い、友達の意見から考えを広げたり深めたりする経験が少ない。

手だて

(1) 主体的に学び合い、友だちと課題を追究していくための単元デザイン

◇学ぶ意欲や必要感を持つための単元展開

- ・興味を引きつける導入の工夫
- ・学習の見通しを持たせる単元のゴールの設定（共有化・焦点化）
- ・意欲的な追究を生み出す魅力的な言語活動の設定

◇単元を通して、課題意識を共有・継続していくための単元指導

- ・学んだことを児童の言葉でまとめ、共有する（共有化・焦点化）
- ・学んできたことを板書や掲示で示し、課題意識を共有する（視覚化・共有化）

(2) 主体的に学び合い、読む力を高めていくための授業づくり

◇自分の力で文章を読み取りながら、自分の考えを明確に持つための個人追究

- ・視聴覚機器の活用→課題解決の見通しを明確にする（視覚化・焦点化）
例) 解決の手がかりを示す、読み取りの観点や方法を示すなど
- ・ワークシートの工夫と活用→課題をしぼる、思考を視覚化する（視覚化・焦点化）
例) 教科書を抜き刷りして読み取る場面をしぼったワークシートを使う、絵と文をつなぐ、重要な語句にサイドラインを引く、観点別に色分けをするなど

◇友だちと学び合いながら、考えを広げたり深めたりしていく交流・全体共有

- ・ペアや少人数グループで意見を出し合う、交流の場の位置づけ（共有化）
→話し合いの視点・論点を明確にし、共通点や相違点に気づかせるためにペアやグループの組み合わせを工夫して、考えを広げる場を効果的に位置づけていく
- ・全体で意見を発表し合う、全体共有の場の位置づけ（視覚化・共有化）
→視聴覚機器を活用して、本時の学びを全体で共有し、考えを深める場を効果的に位置づけていく

友と学び合いながら、主体的に課題追究に向かい、読む力を高めることができる

【授業公開を終えて】

- ・どの教科の学習でも電子黒板やスクリーンを使って児童の考えを発表したり、課題を共有したりすることができた。視聴覚機器を授業で生かすと考えたときに、学習支援ソフトを入れたり、難しいPC操作ができなかったりしても、適切なタイミングで学習の過程や成果を視聴覚機器を用いて画面に大きく映し出すことで子供の意識が教材に向いたり、学習集団全体が同じ課題を共有できたりと大きな学習効果を得る事ができるとわかった。

(二) 参加者の声

外国語活動

- ・積み重ねをすごく感じました。「楽しく活動しよう。相手に伝えよう」という意欲が現れている子どもたちだと思いました。
- ・児童の皆が楽しんで授業をしている姿が見られました。普段から良い雰囲気の中で授業を受けているんだなと感じました。
- ・児童から発せられた一つ一つの言葉を拾い上げる姿は、私がこれから意識していこうと思いました。
- ・児童が自分の気持ちをよく表現していました。困っている相手には、適切なアドバイスをしてあげる姿もありました。

特別支援

- ・小学校の先生の説明の丁寧さ、わかりやすさに驚き、勉強になりました。グランドデザインに「特別教育を基盤として」と明記されていて、それがどの学年、どの教科においても大切にされている点がすばらしいと感じました。
- ・活動の場の選択、特に支援が必要な児童への支援、様々な配慮、視聴覚機器の活用の仕方、担任の先生の出、展開などよく練られた授業でした。活動に取り組む児童の姿によく現れていました。生き生きと自分がイメージしたことを形にしながらか、友と一緒に考え協働して楽しんでいる姿、とてもいいなあと思いました。見ている私にとっても楽しい時間でした。児童が自らの活動に満足感をもち、友の良さを感じ、主体的・意欲的に次の学びに向かっていくことができるよう、具体的な姿から成果と課題を明確にして深めていく姿を期待しています。

学力向上（国語）

- ・マンガとアニメの違いについて、アニメーションで表現されていて、子どもたちにとって、つかみやすかったのではないかと思います。
- ・電子黒板があると全文がわかりやすくいいなと思いました。終末のパワーポイントの鳥獣戯画はとても興味をもっていたと思います。
- ・授業の初めにアニメとマンガの違いについてイラストで確認したところ、授業の終わりに挿絵が本当に動いているか確認したところ、共に子どもから「おー！」という声もれ、画面にくぎ付けになっている様子がよくわかりました。電子黒板があるからこそ可能なとても有効な使い方だなと思いました。

緑ヶ丘中学校 研究テーマ
『自ら学ぶ とともに学ぶ』

【中3 理科】

(一) 公開授業

授業者 鈴木 綾子 教諭

(1) 主眼

宇宙から見た月は常に半分輝いていることを学んだ生徒が、なぜ月は満ち欠けするのかを考える場面で、立体モデルやタブレットのアプリ『月の満ち欠け AR』を用いて、月の位置を変化させながら、観察者の視点に立って、月の形を調べることを通して、太陽と地球を固定して考えた場合、月の公転によって、月の形が変わって見えることを理解できる。

(2) 本時の位置 (5時間中 第2時)

前時：月は日周運動をすること、宇宙から見ると月は常に半分輝いていることを学んだ。
次時：日食や月食が起こるしくみについて学ぶ。

(3) 指導上の留意点

- ・月を地球から観察しているのか、宇宙から観察しているのかをはっきりさせながら考えるように指導する。
- ・「月の満ち欠け AR」を正しく使用できるように、使い方をていねいに指導する。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	○指導・支援 評価	時間
事象の確認	1 前時を振り返り、月の満ち欠けについて考える。	ア 月は地球の周りを公転していたな。 イ 宇宙から見ると月は常に半分が太陽に照らされていたな。 ウ 地球から見ると、月の形は規則的に変化していたな。	○Dagik Earth を用いて、月の満ち欠けの様子を振り返る。 ○月を地球から観察しているのか、宇宙から観察しているのかを明確にする。	5
	学習問題：なぜ月は満ち欠けするのだろうか。			
課題を把握し	2 予想を立てる。 3 地球から見た月の満ち欠けのようすを立体モデルで観察する。	エ 月が動いているから満ち欠けして見えるのだと思う。 オ 地球の自転に関係しているのかな。 カ 月が地球の周りを公転しているからだと思う。 キ 画面を見ると Dagik Earth で見たのと同じ変化をしてるな。 ク でも実物を見ると右側だけが光っているな。 ケ 私が太陽と向き合っていると立体モデルに何も変化が見られないな。 コ 見る人の位置によって見え方が違うな。 サ 観察者全員で視点をそろえて観察するのは意外と難しいよ。 シ 簡単に宇宙から見た視点、地球から見た視点から月を観察できる方法はないのかな。	○月の満ち欠けはなぜ変化するのかを予想するよう促す。 ○月の立体モデルを地球から Go Pro を用いて連続して観察した時、満ち欠けすることを確認する。 ○立体モデルを用いた観察の際、視点を揃える難しさを感じさせ、『月の満ち欠け AR』を使った観察につなげる。	10
追求して	学習課題：『月の満ち欠け AR』を用いて、月の位置を変化させ、地球から見た月の形がどう変化するのか調べよう。			20
	4 タブレットを用いて月の形の変化を調べる。	シ タブレットのカメラで『月の満ち欠け AR』のプリントを読み取る。 ス 地球から見た月の形を調べられそうだ。 セ タブレットを置いたままにすると、観察しづらい位置の月がある。 ソ タブレットと月と地球を一直線にしないと、正しい形が観察できないね。 タ タブレットを動かしてみたら、観察者の位置が	○月の満ち欠け AR の使い方を電子黒板で確認する。 ○プリントの周りをタブレットを持って移動すると、視点を変えられることに気づけた生徒がいたら、その考えをクラス全体に共有する。	

		<p>はっきりして月の形が捉えやすくなった。</p> <p>チ 「ア」と「オ」の半月は、宇宙から見ると同じだけど、地球から見ると光っている向きが逆になる。</p> <p>ツ 太陽の反対側に月が来ると満月になる。</p>	<p>○班で互いに教え合いながら実験を進めるよう促す。</p> <p>○地球から見た月の観察結果を学習カードに記入するよう促す。</p> <p>○机間指導を行い、記録が間違っているときは、月を見る自分の位置を確認するよう促す。</p>	
まとめ	<p>5 観察結果をもとに考察(例題)に取り組む。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<p>テ 地球上の夕方位置から南の方角にある月の形を書けばいいね。</p> <p>ト 夕方ってどこなんだろう？</p> <p>ナ 南の空ってどっちのことだっけ？</p> <p>ニ 夕方は地球上のAの位置だから、南の空には「ア」の月が見えるはずだ。</p> <p>ヌ 真夜中は観察できなかったけど、モデルで考えたら分かりそう。</p> <p>ネ 公転によって月の位置が変わると、地球から見た月の形が変わるんだ。</p> <p>ノ 観察記録のように、日によって月の形が変わったのは、公転によって月の位置が変わったからなんだ。</p> <p>ハ 月の形によって、見える時間が違うんだな。</p> <p>ヒ 「オ」や「カ」の月は、真夜中を過ぎて見えるようになるんだ。</p> <p>フ 「オ」の月が通学途中に見えた理由が分かった。</p> <p>ヘ 月の位置が変化することにより、光っている部分の見え方が変わって、月の形が変化している。</p>	<p>○観察結果をもとに、考察(例題)に取り組ませる。</p> <p>○地球上での夕方や真夜中の位置、そこでの方位が思い出せない生徒には、デジタル教科書の図を振り返らせる。</p> <p>○本時の振り返りを記入するよう促す。</p> <p>評価 太陽と地球を固定して考えた場合、月の公転によって、月の形が変わって見えることが理解できている。</p> <p>評価方法 学習カードの記述、発言やつぶやき</p>	15

(5) 評価基準

- A 考察に月の形を正しく描き、その考え方を言葉や図で説明している。
- B 考察に月の形が正しく描けている。
- C 太陽・月・地球の位置関係を捉えきれず、月の形を正しく描けていない。

<評価Cの生徒への手立て>

- ・「月の満ち欠けAR」を用いて、太陽、月、地球の位置関係を再確認させる。
- ・仲間の観察結果も参考にしよう勧める。

(二) 授業研究会より

- ・「Dagik Earth」「GoPro+プラレールを用いた立体モデル」「月の満ち欠けAR」の3つの教材がとても魅力的であった。
- ・魅力的な教材であるため、ほとんどの生徒が授業に向かっていた。
- ・「月の満ち欠けAR」を用いることで、月の満ち欠けを表す図をしっかりと書くことができていた。
- ・とても魅力的だが、準備の大変さを感じた。一人の授業者がやる場合でも同じようにできるか不安。
- ・ARアプリの使い方の難しさがあった。上手に使えず、iPadで別のことをしてしまっている生徒も見られた。「月の満ち欠けAR」の使い方を最初に押さえておくことで、もっと有効に働いたと思う。
- ・iPadを固定して、マーカーを動かしていたが、マーカーを固定して、自分とiPadを動かしたほうがよかったと思う。しかし、その中で、4人のグループ全員で画面を見ることは難しいと感じた。
- ・3つの教材を同時に使う必要性はなかった。ARアプリの使い方をしっかり押さえる時間がないのであれば、「GoPro+プラレール」のみの使用のほうが生徒には分かりやすかったと思う。

- ・今回の授業では「GoPro+プラレール」を使用し地球視点の月の満ち欠けを押さえ、まとめとして「月の満ち欠けAR」を使用してもよいと思う。
- ・月の図はかけるが、説明が書けていない生徒が多かった。生徒の中の、「夕方・南の空」という言葉の理解が少し不足していた。
- ・教材などは、生徒が使いたいと思って使うことができるかが大切であると感じた。
- ・「GoPro+プラレール」の映像を、タブレットに送れば、もっと全員がしっかり映像を見ることができたのではないかと思う。

(三) 成果と課題

成果

視点の移動が難しい地球から見た月の形をGoProを使って観察することができた。

また、月の満ち欠けARを用い、視点を自由に変えながら月の満ち欠けを捉えることができた。

プラレールを使って月を公転させることで月は常に半分しか光っておらず角度によって見え方が変わることを観察することができた。

課題

学校に配備されている視聴覚機器ではやりたいことができないことが多い。より汎用性の高い機器を導入して欲しい。

実験で観察した月の満ち欠けをいかに実際の月の満ち欠けとつなげていくのか、捉えにくい生徒には難しかった。

(四) 参加者の声

- ・天体の単元は私自身どのように教えれば子どもたちにとって、イメージしやすく、理解につながるか悩む単元であります。ICTを使った月の満ち欠けの仕組みは、自身が見ている月が公転運動によって満ち欠けしている様子が容易に観察することができ、本校でも挑戦していきたいと思いました。
- ・ICT教育が進んでいるなか理科の授業における使い方の1つを教えていただき、大変勉強になりました。
- ・立体モデルやARなど、授業に多くの仕掛けがあり、子どもたちが主体的に学べていたように思います。
- ・子どもたちが困りそうな場面で教師の的確な支援がありとてもよかった。
- ・生徒と指導者との関係がとてもよく、あたたかい雰囲気のある授業だったと思います。
- ・プラレール、AR、などどれも素晴らしいものばかりで感心しました。生徒たちも驚きの声があちこちで上がっていました。興味や関心がとても高かったと思います。
- ・授業を見させていただきありがとうございました。学校に戻って、ICTの活用をさらに考えたいと思います。
- ・子どもたちの興味を引くような教材を考える先生方が本当にステキだなと思いました。私自身も教材研究を頑張ろうと刺激をもらいました。

二 第51回長野県視覚・放送・情報教育研究大会

第51回長野県視覚・放送・情報教育研究大会が、令和元年10月24日(木)、松本市音楽文化ホールを全体会場、松本市内の小・中学校（7校）を公開授業、授業研究会場、松本市勤労者福祉センターを番組研究会場として開催されました。下伊那地域からも多数の方が参加し、活発な意見交換が行われました。

【大会主題】

『自ら考え、自ら学び、未来を切り開く子どもの育成』
～ 確かな学びと豊かな心を育む教育メディアの活用 ～

【研究主題】

『教育メディアを効果的に活用し、一人ひとりの子どもに確かな学力を身につけ、心豊かな人間性の育成を目指す』

○参加者の声

飯田市立鼎中学校 宮澤啓介

私は、松本市勤労福祉センターで行われた番組研究分科会（中学校特活・総合・道徳）に参加させていただきました。分科会は、各参加者の先生からNHK for Schoolをどう授業で活用したかのレポート発表があり、それぞれについて意見を出し合うという内容でした。

普段、自分のクラスで道徳の授業を行うと、他の授業では積極的に発言しているが、道徳では発言ができなかったり、学習カードに自分の考えを書けなかったりする生徒が多いです。しかし、NHK for Schoolの映像資料を使って授業を行った際は、生徒の反応もとても良く、様々な考えや意見が出て、生徒が意欲的に授業に取り組んでいたという印象でした。他の先生方の授業実践は、この授業を自分のクラスでやってみたら面白そう、この題材なら活発な議論が生まれるのではないかと、思う授業実践ばかりでした。生徒にとって身近なスマートフォンでの出来事や、中学生のよく知っている昔話を題材としたものなど、生徒にとってイメージがしやすく、興味が持てるものも多くありました。

この研究分科会で先生方の授業実践を聞き、道徳において映像資料が有効であるという考えがさらに強くなりました。学校にはタブレットや電子黒板が導入され、ICT機器が使いやすい環境が整ってきているという感じます。生徒にとっての道徳の授業が、「次は道徳か、残念だ…」ではなく、「今日の道徳は何をするのかな。楽しみだ!」と思えるようなものになるために、映像資料を活用することはとても大事だと思います。NHK for Schoolには、様々な場面で使える映像資料が多くあるので、これからも積極的に活用していきたいです。

三 第30回 情報・視聴覚基礎実技講習会

授業・校務におけるICT活用講座

講座① ICT機器を利用した授業作りについて学ぶ

講座② 教育会グループウェアを使いこなすために

期 日 8月2日(金)

場 所 喬木村立喬木中学校

参加者 19名

今年度の「情報・視聴覚基礎実技講習会」は喬木中学校を会場にして、「ICT機器を利用した授業を行うためのweb上にあるフリーアプリの活用について」と「校務をより効率化するための教育会グループウェアの利用について」の2講座を、参加者の自己課題に合わせて行いました。

講座①「ICT機器を利用した授業づくりについて学ぶ」

喬木村ICT支援員長坂亮介先生を講師に、web上のGoogleドライブにあるフォームを使い意見集約の方法や、スプレッドシートを使いデータの集約を効率的に行う方法を学びました。

フォームではアンケートを作成し、そのアンケートに答えるということをしました。アンケートの作成では、作成見本があり誰でも簡単にできるため準備の手間がかからないということを知り、アンケートを答える場面では集計結果がリアルタイムで反映されるため、集約する時間を節約できることを学びました。このため、アンケートは手軽に作成でき、なおかつ児童生徒の話し合いの時間がより確保できると感じました。またスプレッドシートは、データの集約に特化したソフトであり児童生徒が個々で考えた結果をリアルタイムに全体に共有できることを学びました。

授業でのICT機器利用が広がる中、どのような場面でどんな使い方をすればよいかということを実際にアプリを活用しながら学ぶことができました。

講座②「教育会グループウェアを使いこなすために」

教育会グループウェアの基本的な使い方はもちろん、アンケート機能の活用やPDFファイルの利用方法など便利な機能を学びました。グループウェアにあまり触れていなかった職員もいましたが、アンケート機能やデータの管理などを知り、校務等の仕事を効率化できる講座となりました。

講座①の参加者からは、「googleドライブの存在を知っていたが、どう活用すればよいかわからなかった。今回教えていただき、可能性を感じたためぜひ活用したい」「授業の教材を作成する際に使えるようなものがたくさんあり役立った」「操作しながら研修をすることができて、大変勉強になりました」との感想が、講座②の参加者からは「もう少しじっくりと学びたいと思うくらいよい講座でした」「機会があれば使っていきたいです。働き方改革につながると思います」「今後使用していきたいです」との感想が寄せられました。

両講座とも中身の濃い講座となりました。これから先、ICT機器の利用が授業でも校務でも増えてい

くと思います。そのため、今後も情報視聴覚委員会では、先生方のニーズにあった講習会を計画していきたいと考えています。

四 ライブラリーの充実とホームページの利用

(一) ライブラリー ビデオソフトの購入

番号	題 名	教科等	時間	対象学年
1898	こわくなったらにげようね	安全・生徒指導	18分	小低
1899	小学生のための情報モラルDVD教室第1巻	生徒指導	20分	小高
1900	小学生のための情報モラルDVD教室第2巻	生徒指導	22分	小高
1901	大造じいさんとガン	国語・特活	20分	小
1902	食品のかしこい選び方	家庭科	22分	中
1903	みんなの情報モラルⅠ アニメーションで学ぶ！ ネット社会のルールとマナー	生徒指導	43分	小・中
1904	情報と社会生活～情報活用のルールとマナー	生徒指導	17分	中
1905	情報モラル トラブル集～スマートフォンのトラブル対策	生徒指導	20分	中
1906	幼児の1日～幼児の発達の姿～	家庭科	35分	中
1907	幼児とふれ合う～保育所でのふれ合い体験～	家庭科	30分	中
1908	「特別の教科 道徳」考え方と進め方第1巻	道徳	31分	教師
1909	みんなの情報モラルⅢSNSに潜むリスク	特活 生徒指導	21分	小・中
1910	みんなの情報モラルⅣアニメーションで学ぶ！ スマホにかくれた闇	特活 生徒指導	18分	中
1911	うしわかまるのじしんとかじからじぶんをまもる	小学生向けの 防災のもの	10分	小低
1912	EXCITING BASEBALL Vol 1 コーチング理論と実践分析	保健体育	55分	中
1913	VOLLEYBALL VIDEO Vol 1 パス・トス	保健体育	40分	中

(二) ホームページ

今年度10月より、公益社団法人下伊那教育会ホームページをリニューアルしました。このホームページで、下伊那教育会、視聴覚協会に関する行事、お知らせ、下伊那の四季折々の景色に関する記事を掲載してきました。

今年度は新しいホームページで、各行事における内容を定期的に更新できるように、作業のしやすいページ作りに努めてきました。また、写真を織り交ぜて、一目で行事の内容や伝えたいことが伝わりやすい記事となるように工夫してきました。今後、担当者が変わっても、毎年同じ時期に同じ行事の内容が手軽に更新できるように、内容、ページのあり方について更に工夫を重ねていきます。

ホームページについてご意見がありましたら、下伊那視聴覚協会までご意見をいただければ今後の更新の参考にさせていただきます。今後も、更に多くの方に下伊那教育会、下伊那視聴覚協会（ライブラリー）への関心を持っていただけるように、魅力あるホームページづくりを目指していきたいと考えています。

あ と が き

下伊那視聴覚教育協会 副会長 有 賀 大

下伊那視聴覚教育協会では、下伊那郡全体の先生方が情報・視聴覚機器を道具として活用しながら「わかりやすい授業」「児童・生徒がより主体的、対話的で深い学びができる授業」を実現するための一助となり、先生方自身の職能向上のために寄与できることを願って研究大会や基礎実技講習会などの企画運営を行っています。

夏に行われた基礎実技講習会では「授業におけるICT活用講座」と題して、昨年度に引き続き喬木中学校のICT支援員である長坂先生を講師に迎え、タブレットPCや電子黒板を授業の道具として使い、わかりやすい授業や協働的に学ぶ授業を構築するための実技講習を行いました。会場の喬木中学校は、郡内でも早くから生徒一人一台のタブレットPCが整備されており、生徒も先生方も日常的にICTを道具として使っている学校です。ICT活用を牽引している長坂先生の講座は、「今回紹介していただいた中でGoogleスライドの各班の考えを書く実践はとても役に立った。ぜひ活用してみたい内容だった。」「自分以外の班の考えも見ながら自分たちの考えを書き留めていくということはとても便利で、授業で使える内容だと感じた。」という参加者の感想が示す通り、実践的ですがすぐに自分の授業に生かせるものから、次世代の学びとして目指していけるものまで、どの参加者にも満足して頂ける内容でした。

また、昨年度から始めて、継続してほしいとのご意見をいただいていた「情報・視聴覚委員会によるグループウェアの使い方講座」を並行して開催したところ、各校でグループウェアを管理されている方に参加していただきました。「グループウェアを活用することで、効率よく校務や各学校への調査を行うことが出来ると分かりました。」「基本的なことをしっかり教えていただいたので、今後資料を見ながらやれば一人でも出来そうです。」等の感想を頂き、今後も可能な限り繰り返して開講していきたいと予定しています。働き方改革が進む中、それぞれの教員が職能向上のための研修を自らの意思で選択して進めていくことは大切なことであり、夏休みに自己研修の大事な機会として企画している基礎実技講習会には来年度以降もより多くの方に参加して頂きたいと考えています。

11月に飯田市立松尾小学校・緑ヶ丘中学校を会場に開催した下伊那視聴覚・情報教育研究大会では、多くの示唆を得ることができた有意義な研究会となりました。学校をあげて取り組んでいただいた両校の児童・生徒、先生方はもとより、大会運営にご協力いただきました飯田市教育委員会をはじめ、下伊那教育会、下伊那校長会のみなさまに深く感謝申し上げます。さらに、研究会でご指導いただきました助言者の先生をはじめ、真摯にご討議くださいましたご参会の先生方に心よりお礼申し上げます。

来年度は、大鹿小学校・大鹿中学校を会場として、63回目となる大会が予定されております。

下伊那視聴覚協会、情報・視聴覚委員会では、これら研究大会・基礎実技講習会の運営や下伊那教育会webページの運営などにより、下伊那の情報教育・視聴覚教育発展のためにどのように関わっていけばよいか、よりよい方法はなにかを研究しながら推進しております。関係各位の皆様方にはこれからもご支援ご鞭撻のほどよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、本委員会の活動をお支えいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和元年度 下伊那視聴覚教育協会組織

◇顧問	熊谷 邦千加	下伊那教育会長（飯田東中学校長）
◇会計監査委員	宮島 忍 桐生 尊義	下伊那教育会会計監査委員 下伊那教育会会計監査委員
◇協会長	川手 浩司	喬木中学校長
◇副協会長	有賀 大	遠山中学校教頭
◇総務	小木曾 雄亮	根羽中学校
◇研究	吉田 周馬 杉山 諒	緑ヶ丘中学校 松尾小学校
◇番組研究	田中 崇 富田 寛 藤原 卓也 宮澤 啓介	豊丘南小学校 理科 下久堅小学校 理科 泰阜中学校 理科 鼎中学校 道徳・特別活動・総合
◇ライブラリー	○熊市 真也 吉田 周馬 杉山 諒	売木中学校 緑ヶ丘中学校 松尾小学校
◇ホームページ	○小木曾 雄亮 田中 崇 熊市 真也	根羽中学校 豊丘南小学校 売木中学校
◇事務局	宮澤 傳二	協会ライブラリー